

濱田芽生子の



希望郷いわて国体2016冬季大会スピードスケート成年女子に出場した本市出身の濱田選手。地元国体に全身全霊をかけて挑む姿を追った。

◎プロフィール
はまだ・めいこ 遠野市松崎町出身、若手県立大学2年。身長159センチ。県のスポーツ選手育成事業「いわてスーパークィーン」の一期生。スケートの素質を買われ、盛岡農高で本格的にスピードスケートを始める。高校時代を含め、これまで国体4大会連続入賞を果たしている。



Challenge 挑戦

1

大会成績
・成年女子500メートル 8位
・成年女子2,000メートルリレー 4位

1_500メートル決勝の第1コーナー。濱田(赤のユニフォーム)は曾我こなみ(青のユニフォーム)の後に食らいつく。2_勝負をかけるも転倒。悔しさにうつむく濱田だったが、会場からはあたたかい拍手が送られた。3_最終日に行われた成年女子女子2,000メートルリレー。4位で来た2走の選手からバトンを受け取り快走。4位入賞に貢献する滑りを見せた



3



2

「悔しい。本当に悔しいです」と濱田は涙をこらえ、唇を噛みしめた。希望郷いわて国体2016冬季大会スピードスケート競技は1月28〜31日の4日間、盛岡市の県営スケート場で行われ、全国の強豪選手が激闘を繰り広げた。濱田は、実力者ぞろいの県代表として、成年女子500メートルと2000メートルリレーに出場した。スピードスケートは、1周400メートルのリンクを周回しタイムを競う競技。国体では、複数が同時にスタートするシングルトラックで行われ、予選、準決勝、決勝の勝ち抜き方式で争われる。28日の500メートル予選では、濱田の滑りは完璧だった。練習で自信をつけたスタートダッシュが決まり、みるみるうちに後続を引き離し1着でゴール。滑り終わった後には笑顔を見せ「自分のレース展開ができた」と胸を張った。29日の同決勝。スタートでいつも通りのいい滑り出し

「地元国体にかける思いは誰よりも強かった」

を見せた。第一コーナーでは、同じ県代表で、前大会覇者の曾我こなみ(ホテル東日本)の後につき4番手に。バックストレートでも粘り強く食らいつき、4番手のまま第3コーナーへ。しかし、最終コーナーで勝負をかけた瞬間、バランスを崩し転倒。レースに復帰するも、最下位の8位でゴールした。悔しさにうつむく濱田だったが、最後まで諦めずに滑りきった勇姿に、会場からは「よく頑張った」と惜しめない拍手が送られた。31日のリレーでは、4位入賞に貢献する活躍で、悔しさを晴らす滑りを見せた。濱田にとって、地元開催の国体には特別な思いがあった。スピードスケートを始めた高校時代から「全国1位」という目標を掲げながら、来る日も来る日も練習を積み重ねてきた。「地元国体で優勝を飾り、応援してくれる家族や仲間、そして自分を育ててくれたふるさとに恩返ししたい」。



国体の翌週に行われた清養園保養センターの「氷上まつり」には、地元の子もたちにスケートの楽しさを教える濱田の姿があった

「この思いとスケートへの情熱が、濱田の成長を支え続けてきたのだ。その分、今大会の悔しさは、誰よりもあっただろう。大会終了後、濱田は「コーナーワークが課題。これから重点的に取り組んでいく」と必死で前を見た。「皆さんの期待に応えられるよう、また、スケート競技に興味を持ってもらえるように、もっと強くになりたい」とさらなる飛躍を誓う。スケートへの熱い思いと人一倍の負けん気で、濱田は挑戦し続ける。さらなる進化を目指して。